

2025 年 6 月 30 日
株式会社三菱 UFJ 銀行

日本トムソン株式会社と「サステナビリティ・リンク・ローン」を成約

株式会社三菱 UFJ 銀行（取締役頭取執行役員 半沢 淳一^{はんざわ じゅんいち}）は、日本トムソン株式会社（代表取締役社長細野 幹人^{ほその みきひと}）との間で、ローン・マーケット・アソシエーション^[1]等が定めたサステナビリティ・リンク・ローン原則に即した、「サステナビリティ・リンク・ローン」によるタームローン契約（以下、本ローン）を締結いたしました。

サステナビリティ・リンク・ローン原則では、借り手のサステナビリティ目標と連携したサステナビリティ・パフォーマンスターゲット（以下、SPT）を設定し、金利などの貸付条件と SPT に対する借り手のパフォーマンスを連動させ、SPT 達成への動機付けを与えることで、環境的・社会的に持続可能な経済活動および経済成長を促進し、支援することを目指します。

本ローンにおいては、以下の SPT 達成状況に応じて利率が変化します。

KPI：Scope1 および Scope2 における温室効果ガス排出削減率

SPT：2030 年度までに Scope1 および Scope2 における温室効果ガス合計排出量 42%削減

に向けた 2025 年度以降の各年度の削減目標（基準年度：2022 年度）

（対象範囲：国内外の日本トムソンの財務上の連結範囲）

同社は、経営理念である「社会に貢献する技術開発型企业」を基本とし、企業活動を通じた持続可能な成長と社会の持続可能性の両立の実現に向け、サステナブル経営を推進しています。様々な社会課題に対し日本トムソングループの事業に係る 6 つのマテリアリティを特定し、そのマテリアリティの達成に向け、資金調達面においてもサステナビリティ課題との関連性を高めることにも取り組んでいます。

【本ローンの概要】

契約締結日	2025 年 6 月 30 日
アレンジャー/エージェント	株式会社三菱 UFJ 銀行
資金使途	運転資金

また、本ローンは、同社が策定した「サステナビリティ・リンク・ファイナンス・フレームワーク」（以下 同フレームワーク）に準拠しています。同フレームワークは、株式会社日本格付研究所より、サステナビリティ・リンク・ローン原則への準拠、設定した SPT の合理性について第三者意見を取得しています。

株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループは、「MUFG Way」の中で「世界が進むチカラになる。」を存在意義（パーパス）と定め、持続可能な環境・社会の実現に向けて、お客さまをはじめとする全てのステークホルダーの課題解決のための取り組みを進めています。引き続き、お客さまの ESG の取り組みを支援し持続的な成長を後押しすることで、環境・社会課題の解決に貢献してまいります。

[1] 欧州、中東、アフリカのシンジケートローン市場の流動性、効率性、透明性を改善することを目的とした協会。英国に本拠地を置き、欧州・中東を中心に 65 ヶ国以上約 800 機関が加盟。

以 上